

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年6月17日

## 【評価実施概要】

事業所番号	870300902		
法人名	株式会社マツウラ		
事業所名	グループホーム きらめき		
所在地	土浦市小松2丁目11-2 (電話) 029-824-7810		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成19年11月22日	評価確定日	平成20年6月17日

【情報提供票より】 (平成19年10月27日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成15年12月20日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	15人	常勤	15人, 非常勤 人, 常勤換算 9人

### (2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1階建ての	～	1階部分

### (3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	30,000 円	その他の経費 (月額)	円
敷金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,200 円	

### (4) 利用者の概要 (平成19年10月27日現在)

利用者人数	27名	男性	6名	女性	21名
要介護1	8名	要介護2	11名		
要介護3	5名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 80 歳	最低	62 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	しほう医院
---------	-------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

介護支援専門員やユニット責任者は、勤務体制などに関する課題を抱えながらも、利用者との関わりを大切に、利用者本位で共に生きるという姿勢で利用者へ接している。  
特に、介護計画については、利用者や家族をはじめとした関係者の意見を反映したものを全員分作成終了したところであり、ケアマネジメント確立に向けた新たな一歩を踏み出そうとしている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回の評価において指摘された項目について、職員間で話し合い、居室の名札表示を見やすくするなど改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	自己評価は、各ユニットの責任者に記入してもらい管理者がまとめているが、評価の意義やプロセスに関する職員の理解が十分ではない。 評価の意義について、全職員に周知を図るよう取り組むことを期待する。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	今年の4月に初めての運営推進会議を開催している。 会議では、利用者の家族から、花見の実施希望や地域行事への招待などの意見が出されて、それに基づいて行事を実施している。 運営推進会議の継続的な開催が望まれる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	家族来訪の際に、金銭出納内容を報告している。 利用者の暮らしぶりや健康状態について、定期的に報告するには至っていない。 暮らしぶりについて、ホーム便りを発行するなど定期的に報告する体制づくりが望まれる。 「家族の希望ノート」を玄関に置くとともに、利用者3名と家族2名を運営推進会議のメンバーとして参加してもらっているが、不満・苦情を十分に吸い上げるまでには至っていない。 利用者や家族は不満・苦情を言い出しにくいという状況を踏まえ、苦情や不満に関して外部機関相談窓口があることをPRすることが望まれる。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	自治会に加入し、地区の敬老会に絵画や折り紙を出展している。 ホームが夏祭りの神輿の休憩所となっており、神輿の参加者に麦茶を振舞うなど交流に努めている。 利用者が、登校する小学生に声かけするなど地域に溶け込むよう努めている。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の中に、「地域の一員として――」などの言葉が入っており、地域密着型サービスを目指しているが、「家庭的な環境」という観点が理念に盛り込まれていない。	○	運営基準にも謳われている「家庭的な環境」という観点を、理念に盛り込むことを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申送り時などに管理者から職員に理念についての話をしているが、職員に十分周知するまでには至っていない。	○	職員自らグループホームとして、どうあるべきかを考えるなかで理念の周知を図ることが望まれる。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地区の敬老会に絵画や折り紙を出展している。 ホームが夏祭りの神輿の休憩所となっており、神輿の参加者に麦茶を振舞うなど交流に努めている。 利用者が、登校する小学生に声かけするなど地域に溶け込むよう努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価において指摘された項目について職員間で話し合い、居室の名札表示を見やすくするなど、改善に取り組んでいる。 自己評価は、各ユニットの責任者に記入してもらい管理者がまとめているが、評価の意義やプロセスに関する職員の理解が十分ではない。	○	評価の意義について、全職員に周知を図るよう取り組むことを期待する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年の4月に初めての運営推進会議を開催している。 会議では利用者の家族から、花見の実施希望や地域行事への招待などの意見が出され、それに基づいて行事を実施している。	○	運営推進会議の継続的な開催が望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の入居にあたり市担当者と相談をしている。 市が開催するケアマネージャー講習会へ参加を予定している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族来訪の際に、金銭出納帳内容を報告している。 利用者の暮らしぶりや健康状態について、定期的に報告するには至っていない。	○	利用者の暮らしぶりについて、ホーム便りを発行するなど定期的に報告する体制づくりが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「家族の希望ノート」を玄関に置くとともに、利用者3名と家族2名を運営推進会議のメンバーとして参加してもらっているが、不満・苦情を十分に吸い上げるまでには至っていない。	○	利用者や家族は不満・苦情を言い出しにくいという状況を踏まえ、苦情や不満に関する外部機関相談窓口があることを積極的にPRすることが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員及び利用者が1ヶ所に集まり、「きらめき体操」をするなど、ユニットを超えて職員と利用者がコミュニケーションを図っている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、各種の認知症介護研修の必要性を十分に認識しているが、職員の育成を図る環境づくりが十分ではない。	○	運営者は職員育成の重要性を認識し、全ての職員が地域密着サービスの従事者として質を向上させていけるよう、各自の立場・経験・習熟度の段階に応じて学べる環境づくりが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地元のグループホーム協会に参加しているが、管理者が交代したばかりという事情により、情報交換内容を把握するまでに至っていない。	○	同業者とのネットワークに積極的に参加し、質の向上に向けた情報交換の活発化を期待する。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居当日は、家族と昼食を一緒に摂ってもらうなど本人の不安を和らげる対応をしている。 見学を積極的に受け入れている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が利用者と話し合うなかで人生についての考え方を学ぶなど、利用者と共に過ごし支えあえるような人間関係を築いている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「入居時状況調査表」により、一人ひとりの思いや意向を把握している。 「アセスメントシート」を毎日記録することにより、思いや意向を把握しようと努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりの関係者の意見を反映した介護計画を作成している。	○	今後は、作成した介護計画を家族等に説明及び確認する事を提案する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にモニタリングを実施するとともに、モニタリング結果を「サービス担当者会議」で総括することにより、介護計画に反映している。	○	現在の取り組みを継続することにより、ケアマネジメントを早期に立ち上げることが望まれる。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地元の医師が毎週往診をするなど、医療との連携を図ろうとしているが、多機能性を十分に活かしたサービス提供にまでには至っていない。	○	地域の社会資源を生かしたサービス提供など、地域密着ならではの多機能性を活かした柔軟な支援にむけての取り組みを期待したい。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が希望するかかりつけ医への通院を支援するとともに、診察結果をファイリングして職員で共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期ケアの必要性を感じているが、人的・物的資源の制約により、重度化や終末期ケアに取り組まない方針としている。	○	契約時の書類等で、利用者や家族に重度化や終末期ケアに関する対応について説明し、同意を得ることが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩として尊厳をもって接するよう努めているが、言葉かけ等の対応が十分ではない。	○	プライバシーの確保にむけた言葉遣いや個人情報保護の研修が望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床が遅い利用者には、朝食時間を遅くするなどの対応をしている。 レクリエーションへの参加を嫌がる利用者には、無理強いせずに利用者と別な部屋で昔話をするなどの対応をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「入居時状況調査表」により、食の好みについて調査している。 利用者が職員と一緒に食事の下ごしらえをしている。 利用者から出された、「刺身を食べたい」などの希望を実現しようとしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回入浴時間を設けているほか、必要に応じてシャワー浴の支援をしている。 入浴を拒む利用者には、「家族の誰々がお風呂に入ると嬉しいと言っていた」など、入浴の動機付けの言葉掛けをしている。	○	入浴回数の妥当性について、利用者や家族の意見も踏まえて、職員間で話し合うことが望まれる。 入浴時の利用者の状況を観察し、必要に応じた手すりの設置が望まれる。
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴を把握するとともに、童話が好きな利用者との本読みや、おやつ後の話し合いを行うなど、利用者の楽しみごとを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの公園への散歩や、食材購入に外出している。 また、ホームで春菊や大根を栽培しており、利用者と一緒に畑作業を楽しんでいる。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関前の道路がカーブで見通しが悪い上、交通量も激しいため、日中も玄関を施錠している。 利用者に圧迫感を与えないため、中庭やユニット間を自由に出入りできるようにしている。	○	安全性を優先し過ぎて鍵をかけることが当たり前にならないよう、鍵をかけることの弊害について繰り返し話し合いすることが望まれる。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回避難訓練を実施しているが、防災マニュアルの作成や地域と連携を図る働きかけが十分ではない。	○	防災マニュアルの作成とともに、運営推進会議等を通じて協力を求めるなどの働きかけが望まれる。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事量のチェック表を整備し、日々の記録をしている。 栄養バランスやカロリー量について、栄養士など専門家のアドバイスを受けるには至っていない。	○	食事の提供状況や栄養バランスについて、栄養士等の専門家からアドバイスを受けられる環境づくりが望まれる。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や居間にソファを配置し、利用者が思い思いの場所で過ごせるよう配慮している。 共用空間の所々に観葉植物を置き、ゆったりと過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にぬいぐるみ・愛用の椅子・ラジオなどを持ち込んでいる。 フローリングの一部に畳を敷き、自分らしい空間を演出している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。